

WHO ファクトシート

新生児：死亡率を下げるには

Newborns: reducing mortality

2017年10月

重要な事実

- ・2016年には、5歳未満の子どもの死亡の46%は新生児、生まれて28日以内(新生児期)の赤ん坊が占めており、1990年での40%から比率は上昇している。
- ・世界中で260万人の子どもの生後1か月以内に死亡し、毎日約7000人の新生児死亡となっている。生後1日以内の死亡が100万人であり、続く6日以内の死亡が100万人である。
- ・生後28日以内に死亡する子どもは、出産時における高品質ケア及び誕生後の熟練ケアや治療の欠如に伴う悪条件や疾病により苦しめられている。
- ・2016年の5歳未満死亡の主要原因には、早産合併症、肺炎、腹腔内関連事象、下痢症、新生児敗血症及びマラリアがある。

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Newborns: reducing mortality

ファクトシート原文は [こちら](#)